

<書評>

「最強」級に丁寧な筆致の「最弱」だった著者からの応援本

「Dr. セザキング直伝！ 最強の医学英語学習メソッド [Web 動画付]」

瀬崎 智之●著

評者 押味 貴之(国際医療福祉大医学教育統括センター准教授)

英語の対策本は数多くあり、その中には本書のように「最強」をうたっているものも少なくない。そのため「最強」というたい文句に眉をひそめる方も多いことだろう。しかし本書は「最強」の英語強者によってではなく、「最弱」の英語弱者であった著者によって丁寧に書かれた医学英語学習の解説本である。そしてその丁寧さのレベルはこれまでに出版された医学英語関連の書籍では間違いなく「最強」といえる。

著者は医師として働きながら米国医師国家試験(USMLE)のコンサルタントとしてこれまでに 1000 人以上の医学生・医師の指導に従事し、数多くの USMLE 合格者を生み出してきた USMLE 受験対策の専門家である。こう聞くと「最強」の英語強者を想像すると思うが、著者は学生時代、英語が「トラウマレベルで苦手」な英語弱者であった。本書はそんな「最弱」であった著者が、USMLE の試験を高得点で合格するまでの体験とあまたの指導経験から得られた医学英語学習方法を、文字通り「最強」レベルで丁寧に解説している。

どのくらい丁寧かというと「英語を学ぶ前にまずは日本語から」というテーマで 1 つの章を使うくらいである。外国語学習において、「母国語を正しく使うという姿勢」は軽視されがちである。しかし、「テンポラールにツモールを認めます」のような「医師のルー大柴化」は英語学習においては非常に問題であり、正しい英語を使える日本人医師はこのような日本語を使うことはない。この章で紹介されているさまざまな具体例を通して「医師として日本語を

正しく使う」という意識を持つだけで英語力が向上する読者も数多くいることだろう。

また、文法や読解といったこれまでの医学英語教材では見過ごされがちだったテーマにも本書は正面から向き合っている。そして、そこに徹底されているのは英語が「最弱」であった著者の学習者としての視点だ。英語塾の選び方や英語試験の対策方法に至るまで、著者は「自分が医学生時代に知りたかった」という情報を厳選し、「最弱」であった過去の自分を想定し、導くような語り口で丁寧に解説している。

もちろん英語が得意な医学生や医師にとっても本書は宝の山といえる。特に後半の USMLE 対策は著者が最も得意とする領域であり、日本において本書ほど丁寧に USMLE 対策を解説している書籍は存在しない。試験情報や勉強方法はもちろん、合格に至るまでのさまざまな状況をシミュレーションして丁寧に解説している。USMLE 受験を考えている医学生・医師にとって、本書は必携の書といえる。

ただ、本書の読後感は医学英語学習の解説本のそれではない。「最弱」であったコンプレックスを大きな力に変えた著者から、英語を苦手とする日本人医学生に贈られた「温かい応援本」というのが本書の本質であり、英語を使って新たなことに挑戦したくなる、そんな一冊である。

● A5・頁 264 2020 年 04 月

定価：本体 3,400 円＋税

[ISBN978-4-260-04174-4] 医学書院刊